
仮面ライダーディケイドとある世界スピンオフ！

sinne-キヨノリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーディケイドとある世界スピンオフ！

【Nコード】

N7087Z

【作者名】

sinne - キヨノリ

【あらすじ】

仮面ライダーディケイドとある世界のスピンオフ！スピンオフなので、キャラ崩壊は間違いなし！時々別の方の小説からもゲストをお呼びします。さて、毎回下される意味の無い(?)ミッションや、キャラクターの心を決る質問、そして喧嘩上等の運動会！？色々します。

ファイル1：とりあえず設定を・・・（前書き）

という事で始めました、スピノフ。
さて、今回の犠牲者は・・・

ララ「鳴滝さんなら、あそこで」

そう、ララが指差した先には、木にぐるぐる巻きにされた鳴滝が「おのれデイケイドゥ!!!」と叫んでいた。

士「あいつは通常運行か、じゃあ、俺達もこれに参加するぞ。で、最初はなんだ？」

士はそう言つて、マリンチェリアの椅子に座る。続けて、ユウスケ、夏海とその近くの椅子に座る。

ルルはまだ追いついてない様子だったが。

ルル「……ちょっと待つて……僕には、何が何だか……」

士「だから、スピノフだよ」

ユウスケ「ああ、本編とは違った感じで、楽しんでいくんだ」

士「だが……鳴滝が居るのが気に食わないがな」

鳴滝「おのれデイケイドゥ!!!」

夏海「煩いです!」

夏海が、近くに置いてあつた棒を鳴滝目掛けて投げた。

鳴滝はもちろん失神。

ちなみに窓は開いていた為、窓が割れるなんて事は起こってない。

ララ「夏海ちゃんナイス!」

夏海「えへへ、ほめられる事してませんよ」

ララ「で、本題にハッツイルツケツドッ！」

ララは、資料の様なものを机の上に置いた。

ユウスケ「これは何だ？」

ララ「これはね、資料集。フォルティやらデクレスやらピアニ、やらクレンシエやら募集ライダーの資料集なの」

ルル「・・・ふん」

ララ「じゃあ、説明するよ」

仮面ライダーフォルティ

変身者：ルル

色は白黒。主に黒の方が比率が高い。

頭はフォルティの形状をしてる。

ララ「まあ・・・詳しいところは作者の頭のスペックの限界って事だ「よくない！」ルン

ララ「ええええ・・・」

ルンに言葉を遮られたララは、渋々説明を始める。

ララ「えっと、パンチ9tキック7tジャンプ80msピード秒速

23」

ルン「スペックは大きい方なのね・・・」

ルル「…そうなのか？」 スペックをよく分かってない

失人「分からない…」 上に同じく

ララ「ちなみに、デクレスも同じスペック。クレンシエはこれより一つずつくらい低くて、ピアニは三つずつくらい低いんだよ」

士「意外にピアニのスペックは低いんだな・・・」

ララ「変身者が分かればねえ・・・。ま、でもその分武器が強いんだけど」

フォルティ

・変身道具

キーベルト、フォルテキー。

・武器

フォルテブレード・・・フォルティの剣。通常武器。

・カードキー

フォルテ…フォルティに変身する時にフォルテキーを挿した時に出るカード。

フォルティッシモ…最強フォームになる為のカード（詳細は後の本編で）

チャージアンロック…溜めた力を解放するカード。

フリーズ…相手を凍らせるカード。ルルの本来の力が封じられている。

アンロックキック…ライダーキックを繰り出すためのカード。

・技

フォルテスラッシュ：チャージアンロックをした後にフォルテブレードで斬る技。

フリーズナックル：拳を凍らせた状態で相手を殴る技。

アンロックキック（ライダーキック）：足の力を解放し、キックを放つ技。大体の必殺技。

ララ「らしいよ！」

・ちなみに変身順序

一
まずキーベルトの錠前部分を腰の前に持つてくる。

二
そして、キーベルトにフォルテキーを挿す。

三
この時は一回フォルテキーを空中に上げてキャッチする。

ベルトからカードキー「フォルテ」が出て来る為、それを取りカードを持つてない方の腕を振り上げ、持っている腕をスキャンさせる。この時に、「変身」と言いながら振り上げた方の腕をステッキを振る様にして降ろす。

ルン「結構出来てるわね・・・」

ララ「殆ど即行で作り上げたけどね！」

ユウスケ「作中一度も使っていないしな・・・」

士「次回から使っらしいぞ。ちなみに、カードを使うのはフォルテイだけと聞いたが・・・」

ララ「うん、それ以外のは鍵のみ。ぶつちゃけ、クレシエンは持っている武器とか、ルンのサポートで行けるし、ピアニイは鍵でするし、デクレスは要りません」

失人「まあ、デクレスのあの強さはな…」

ララ「うん、結構強い筈の失人君でさえもあういう風になるくらいだもんね…」

ルル「あ、そうだ。スピノフで先行登場するキャラが居るんだ」

士「誰だ？」

ルル「…こつち来て…」

??「……」

そうルルが言うと、灰色のショートヘアに全体的に浅黒い肌灰色の瞳で首に包帯を巻いた青年が入ってきた。

ララ「水音ラルさん原案の、鈴村中君すずむらなかのです！」

士「ふ〜ん」

中「…」

中という青年は、メモ帳に何か書いて、その場の全員に見せた。

中『はじめまして』『ここより中の書いた事はこつちいう風に表示されます（）』

ルル「えっと…彼の設定はオリジナルのカブトの世界出身で、「人類ワーム化計画」の被検体で、ネイティブの青年。変身する仮面ライダーはゼブル。モチーフはハエだって」

ララ「ちなみに、中君は声が出ないから、メモ帳で会話するんだよ」

中『二人とも説明どうも』

士「オリジナルのカブトの世界出身という設定か…」

ユウスケ「でも、生身でく」「これネタバレ！」　ララ

夏海「それにしても、カブトのライダーって、昆虫系ですよね？」

士「確かに、カブトムシ、スズメバチ、トンボ、サソリ、バツタとかあるしな」

中『ちなみにハエの中でもニクバエに近い』

ララ「え、何が…？」

ルル「ゼクターが」

士「成る程な、大体分かった」

ユウスケ「…オチが無い」

カズマ「燃やすぞ…ZZZ…」

夏海「カズマさん寝ぼけながら来ないでください！」

続く

ファイル1：とりあえず設定を・・・（後書き）

初っ端から凄い事になってますw（いろいろな意味で）

さて、スピントフに先行登場させていただきました鈴村中さん。

ルルは人の心の中を一応読めるという事で…。

ちなみに、ルルの力解放時の特殊能力はクロックアップ、フリーズ

（氷系）、念力、擬態（一応出来るらしい）、治癒能力。

ララはルルと違って氷系ではなく水系。

追記

所々修正しました。もうこのグダグダ感は修正できません…。

次回からグダグダにならないようにします！

ファイル2：多重人格！出番は大切です（前書き）

今回こそはグダグダにならないようにしたいです…。

ファイル2：多重人格！出番は大切です

カズマ「なあ、シンジ」

シンジ「何？カズマ」

カズマが突然シンジに話しかけてきた。その内容は…。

カズマ「ぶっちゃけさ。アクア（メガマックスじゃないよ！）の出番とか分かりそうだけど分からないところってあるじゃん？」

シンジ「あゝ確かに」

カズマ「だからさ…。もう少しそこら辺の出番を多くしてくれないか！」

シンジ「じゃあ、陳情。だな？」 薔薇を取り出しながら

ユウスケ「ディケイドのスピノフっていえばそれですよね」

+++++

カズマ「…シンジ！早く来い！」

シンジ「カズマ…そんな急がなくても良いだろう…陳情はさ…逃げないん…だからっ！」

2人は急いでワールド・ガーディアン本部へと向かっていた。

ファイル2：多重人格！出番は大切です（後書き）

ララ「短いね！しかもやっぱりまだグダグダじゃん！」

ルル「それが・・・スピノフクオリティ・・・」

矢人「いやいやいや…此処まで酷くないぞ？」

アクア「結局あの顔文字（？）劇はなんだっただ…？」

ララ「という事で本編のアクアの登場数が多くなる（かも）！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7087z/>

仮面ライダーディケイドとある世界スピンオフ！

2011年12月29日17時54分発行